

勿凝学問 85

最近の生活は、すさまじきものは宮仕えってところかな、年金担当記者諸君

今朝の日経一面での年金記事をみて

2007年6月18日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

「勿凝学問 82 [年金未統合記録の統合“一年問題”考——ついでに大衆という底抜けに
明るい研究対象の紹介も](#)」を読んだ人から、「メディアは大衆の方に入のでしょうか、そ
して研究者は？」との問い合わせがあった。言わずもがなだろうから、答えてあげないヨ。
研究者については、わたくしがこれまで造っては使ってきた「お騒がせ経済学者」「お神輿
需要」「経済学者の瘡蓋理論」「退役軍人」「知名度極大化行動」「負け太り」「論文数極大化
行動」などの言葉（以上、50音順）——これらの専門用語(?)はⅢ巻の索引にちゃんと載っ
ています——を参照してもらいたい。また、Ⅲ巻には、投票者、メディア、研究者、政治
家を総括して、次のようなことを書いていたりもする。

投票者は、合理的に行動する結果、公共政策には無知になるという、投票者の合理的
無知を前提として、思考をスタートする。彼ら投票者は、手軽に得られる情報か
つ理性よりも感情に訴えられた情報をもとに、公共政策に対して（ひとりひとりが
それなりの）意見をもつことになる。合理的無知な投票者に、お手軽で感情に訴え
る情報を提供するの、主にメディアである。彼らメディアは、ライバルと熾烈な
競争を展開しながら販売数や視聴率の極大化行動をとっていると仮定する。このメ
ディアは、しばしば世論調査なるものを行ったりするのであるが、世論調査はメデ
ィアが発した情報を鏡に映したものに過ぎないことに、メディアはまったく気づい
ていないか、気づいていないふりをしたりもする。

・・・

公共政策を作成する政治家は、次期選挙における得票率極大化行動をとっているも
のと仮定する。そして、政策形成に、時にはけっこうな影響力をもつ研究者たちは、
論文数極大化行動、もしくは知名度極大化行動をとっていると考えておく。

メディアも、政治家も、研究者も、投票者に代表される国民の幸せなどには関心は
なく、国民が完全情報をもたない合理的無知な状態であることにつけこんで、自ら
の目的関数を極大化させるために、あれやこれやの情報戦略を展開する——という
絶望的人間モデルを思考の基礎におく。このモデルに基づけば、それぞれ違った形
で情報を司る職業であるメディア・政治家・研究者たちの基本戦略は、ひたすらに
不幸な国民を創り出すという戦略に集中することになるのだが、これは丁度、医師

は、患者がいないと仕事がなくなってしまうために、病を患う人たちを創出したくなる誘因をもつことと同じ関係にある（余談となるが、だから、本当はこれら専門情報を司る職業では、専門家としての倫理規制がとても重要になるはずなのである）。

Ⅲ巻, p.13.

われながら、実に高い説明力をもつ社会観察モデルだと思う（笑）。

ところで、日曜日や月曜日の新聞紙面はだいたい退屈なものである。それもおそらく当たり前のことなのであり、土曜日や日曜日には、政治も経済も動いていないわけで、したがってこれといって取り立てて書くこともなく、記事が薄くなるからだろうと察しはつく。

ゆえに、しばしば日曜日や月曜日には、記者が隠し球として持っていた（大方素っ頓狂な）記事が1面などを飾ることになる。また、記者的には、「・・・が明らかになった」というのは、自分の中で明らかになった（理解した、しばしば明確に誤解できた？）日を基準に使うてよろしい表現であるようで、それゆえに、日曜日や月曜日の紙面の中で、「・・・が明らかになった」、すなわち、あたかも記事が薄くなりがちな^{にちげつ}日月の前日の“土曜日や日曜日になにがしかが明らかになった”かのような記事が登場することになる。だから、日曜日と月曜日の新聞は6掛けくらいで読むのがいいんだよなあ—————というようなことを、今朝の『日経新聞』をみても思ったわけである。

今朝、『日経新聞』朝刊の1面に「92—96年入社社員の年金 学生時代分統合漏れも基礎年金番号に」を拝読して、新聞に驚かされることになれているはずのわたくしも、一瞬、笑ってしまった。記事によれば、

四年制大学を卒業して一九九二—一九六年に就職した会社員の大部分で、大学時代の国民年金の加入記録が基礎年金番号に統合されていないことが明らかになった。

らしいのである。当たり前じゃないかい（笑）。それにこの話、6月6日の『朝日新聞』で、次のような形で取り扱っている話しでもある。その話しとは・・・

国民年金が学生でも二十歳から強制加入になったときに大学2年生であった記者が、大学時代に親に払ってもらった国民年金保険料の記録と朝日新聞入社後の厚生年金の記録を、基礎年金番号に統合する実体験話。

朝日新聞の記者の実体験記事の見出しや、記事中の文章の言葉遣いは、社の方針に沿ったためか、妙に社保庁に対して批判的になってはいるけど、話しとしては、なんてことはない。「宙に浮く」もなにも、制度上、そういうふうになっていて、「92—96年入社社員」、すなわち現役入学かつ留年なしの人であれば目下33歳—37歳の人は、年金受給年齢

に達するまでの新規裁定時に統合することが予定されていただけである。そして実際、年金記録統合の実体験記事を書いた30代後半の朝日新聞記者には、昨年、社会保険庁から「年金手帳の記号番号調査のお願い」という封筒が送られていた。その内容は、「要するに、私と同じ氏名、性別、生年月日の年金記録が“宙に浮いている”可能性があるということらしい」——社会保険庁、「年金記録を統合したいんだけど」などという封書を出したりして、ちゃんと働いているのではないかい。ビックリだ！！



『朝日新聞』2007年6月6日朝刊

そして、統合手続そのものは、「窓口で古い住所照合、あっさり解決」の運びとなる。おめでとう！

さてさて、今朝の日経。

92—96年入社社員の年金、学生時代分、統合漏れも——基礎年金番号に。

2007/06/18, 日本経済新聞 朝刊, 1面

四年制大学を卒業して一九九二—一九六年に就職した会社員の大部分で、大学時代の国民年金の加入記録が基礎年金番号に統合されていないことが明らかになった。学生時代に払っ

た国民年金の記録が、就職後に加入した会社の厚生年金の記録につながらず、約五千万件のさまよう年金記録の一部になっている。該当者は社会保険事務所に出席して手続きをしないと、将来の年金受取額が減ることになる。

九一年四月から二十歳以上の学生にも国民年金への加入が義務付けられた。収入のない学生に代わって親などが払う例が多かった。この学生が卒業後に会社員になって厚生年金に入ると国民年金とは別の年金番号が付き、二つの年金記録が分断されたままになった。

九七年一月の基礎年金番号の導入後は、学生時代の国民年金も就職後の厚生年金も同じ基礎年金番号になり、こうした問題は起こらなくなった。九二年—九六年入社の会社員は制度改正の谷間で被害にあった格好だ。

九二—九六年に就職した会社員の未統合の国民年金の正確な件数は明らかになっていない。社会保険庁の調べで判明している三十歳代の未統合の国民年金の記録は約百四十七万件で、四十歳代より約四割多い。三十歳代の未統合記録の多くは、九二—九六年就職組とみられる。

未統合の大学時代の国民年金の記録を、現在勤めている会社の厚生年金に統合するためには、年金加入者が社会保険事務所に申請する必要がある。申請によって、社会保険庁のコンピューターの中に入っている国民年金の記録を、現在は基礎年金番号がふられている厚生年金に統合すれば、将来年金を満額受け取れるようになる。

まあ、この記事、どこにもウソも間違いもない。でも、なぜだか分からないけど、正しく理解するためには、解説が必要となる(?)。ということで、【解説】でもって、月曜1面記事に6掛け、いやいやマイナスの符号あたりでも掛けてみよう。

学生時代に払った国民年金の記録が、就職後に加入した会社の厚生年金の記録につながらず、約五千万件のさまよう年金記録の一部になっている。

【解説】ということは、5千万件のさまよう年金記録の中に、なにも問題のない記録がかなり入っているということを読者に知らせてくれているわけだな。与党にとってなんとありがたい記事なのか！

九七年一月の基礎年金番号の導入後は、学生時代の国民年金も就職後の厚生年金も同じ基礎年金番号になり、こうした問題は起こらなくなった。九二年—九六年入社の会社員は制度改正の谷間で被害にあった格好だ。

【解説】97年1月の基礎年金番号の導入後の学生には、今回の「さまよう年金記録」(日経のオリジナルな表現)は、関係ないということ。そして、92年—96年入社の会社員は、まあ、年金を受給できる年齢になる前に、少なくとも一度は社会保険事務所に行った方がいいというわけだ、なるほど。でも、これまでも、年金受給開始年齢60歳の2年前に通知がきて、みんな社会保険事務所に足を運んでは年金記録を確認し、年金給付額の新規裁定時

に未統合の年金記録は統合することになっていただけだから、92年—96年入社の会社員の
手間暇そのものには、なんの影響もないってことかあ——ほ〜っ。

九二—九六年に就職した会社員の未統合の国民年金の正確な件数は明らかになっていない。
社会保険庁の調べで判明している三十歳代の未統合の国民年金の記録は約百四十七万件で、
四十歳代より約四割多い。三十歳代の未統合記録の多くは、九二—九六年就職組とみられ
る。

【解説】 ってことは、40歳代よりも約4割多い30歳代の未統合記録の多くは、なんの問
題もない「さまよう年金記録」ってことだ。知らなかった。グッドインフォメーション！

未統合の大学時代の国民年金の記録を、現在勤めている会社の厚生年金に統合するた
めには、年金加入者が社会保険事務所に申請する必要がある。申請によって、社会保険庁の
コンピューターの中に入っている国民年金の記録を、現在は基礎年金番号がふられている厚生
年金に統合すれば、将来年金を満額受け取れるようになる。

【解説】 ありがたい情報であるし、そりゃそうだ。一言付け加えてほしかったのは、「した
がって、九二—九六年就職組のあなたたちは、いまは何の心配もなく、いますぐ社会保険
事務所に行く必要はまったくない。もし、最近の騒動をみてどうしても落ち着かないとい
うのならば、騒動が落ち着いて後に、ゆっくりと社会保険事務所に行くことを勧めたい。
でないと、いま社会保険事務所を訪れたほうが良いお年寄りにご迷惑をかけますからねえ」
ということくらいかな。でも、そんなことを書いたんじゃ、一面には載らないか（笑）。

最近の生活は、すさまじきものは宮仕えってところかな、年金担当記者諸君。